

資料1

第2回船橋市地域災害医療対策会議 医療部会

日時：令和6年12月19日
午後7時～

場所：3階健康診査室及び
WEB会議のハイブリッド

議題

- 1 災害医療対策本部に関すること
- 2 病院前救護所に関すること
- 3 その他

議題1

災害医療対策本部に関すること

1 船橋市の災害医療対策ハンドブックの策定

令和6年度能登半島地震を踏まえ、搬送体制や外部団体(DMAT・DHEAT等)を受援する班の創設等の見直しをした「船橋市の災害医療対策ハンドブック」を策定した。

(令和6年11月)

策定に先立ち、前回医療部会でいただいたご意見を反映させた(案)を、災害医療対策本部を運営する各班に対して意見募集を実施した。

2 船橋市総合防災訓練について

船橋市総合防災訓練の一環として「災害医療対策本部運営訓練」を実施しました。

日時	令和6年11月24日(日)午前9時～12時		
訓練内容	災害医療対策本部 運営訓練	板倉病院前救護所 設置・運営訓練	船橋市立医療センター による防災訓練
会場	市保健福祉センター	板倉病院	船橋市立医療センター
参加者	医師会:5名 歯科医師会:2名 薬剤師会:2名 柔道整復師会:2名 市職員:36名 (保健所、健康部、消防局)	板倉病院スタッフ:124名 医師会、薬剤師会、 柔道整復師会:計12名 災害医療協力病院:4名 協力薬局:1名、地域住民: 16名、市職員:14名	医療センタースタッフ:160名 看護学生:40名 医師会:1名 歯科医師会:1名
備考	情報伝達訓練:ライフラインの支援要請		
	情報伝達訓練:重要者の転院要請		
	※訓練内容の詳細はスライド7ページ及び資料2を参照。		

※その他、市内の公共施設等においても防災訓練が実施され、指定避難所となった施設では参加した市民に「船橋市の災害医療対策」を配布しました。(別添資料参照)

3 災害医療対策本部運営訓練について

(※詳細は別添資料2「災害医療対策本部運営訓練参加者資料」を参照)

- 訓練目的

- 本市に大きな被害を及ぼす恐れのある千葉県北西部直下地震の発生を想定し、災害医療対策本部(保健福祉センター)と板倉病院前救護所を同時に立ち上げ、発災時に実際に使用するツールを用いた情報伝達を行うなど、発災時の活動の実践や検証を行う。

訓練の概要

- ① 災害医療対策本部会議の運営（発災から6時間30分後を想定）
 - ・被害状況やクロノロを用いた対応経過から会議での報告事項を整理
 - ② 付与課題に対する災害医療対策本部の班活動
 - ・四師会及び各班で連携しながら、付与された課題に対する対応策を実践
 - ③ 災害医療協力病院（板倉病院）等との情報伝達訓練
 - ・ライフラインの支援要請（発災から7時間後を想定）
 - －板倉病院からの情報を受け、災害対策本部へ支援要請
 - ・重傷者の転院要請（発災から7時間後を想定）
 - －板倉病院からの患者情報を受け、医療センターへ受入要請
 - －医療センターからの受入可能指示を受け、消防局へ搬送要請
- ・ 以上の内容について、MCA無線や、ハンドブックに記載している様式等を使用しながら、大部分をブラインド型で実施した。

①災害医療対策本部会議の運営

- 災害医療対策本部員や四師会代表者が一同に集まり、会議を実際に行う

災害医療対策本部会議の様子



②課題に対する災害医療対策本部の班活動

本部内の活動経過を記録



病院状況を確認し、支援チームを選定



②課題に対する災害医療対策本部の班活動

傷病者情報を本部長と共有



傷病者の搬送先調整



③災害医療協力病院等との情報伝達訓練

- 板倉病院から業務用水の補充要請を受け、市災害対策本部へ支援要請を実施
- トリアージ赤の重傷者2名について、医療センターへ受入要請を行うとともに、市消防局とも連携し共有した。

衛星携帯電話により、ライフラインの支援要請



板倉病院からMCA無線により、重症患者の情報を収集



訓練時に作成したクロノロジー(企画調整班)

いつ、誰から、誰が、どんなことを伝達したのか

時間	発	受	内容
15:30	企画調整班 医療支援班 保健福祉管理 消防団調整班 報道班 資材管理 四脚台 本部		第1回災害医療対策本部会議の開催 被害状況報告 経過報告 セマテックの連絡あり。(担当者集まる) 千葉県消防庁 帯折 多くシネ不足 被災状況確認中 米量調整開始予定 搬送車両の確保(3台) (無線機・衛星携帯電話の設置) 各部署間の被害状況 作業状況報告 情報連絡の中心員を担任する。第四本 外回 作業員不足 欠員を補う。外回 時間午後を以て第二回会議を開催も予定 (17:00)
15:50	消防団調整班 坂内 石毛	企画調整班 高坂 櫻井	搬送車両の確保(3台) 搬送車両の確保(3台) 搬送車両の確保(3台)
16:00		企画調整班	医療
16:05	保健福祉管理 中野	櫻井	被害状況報告あり
16:05	報道班 中野	櫻井	搬送車両の確保(3台)
16:10	保健福祉管理 中野	櫻井	搬送車両の確保(3台)
16:11	医療支援班 中野	櫻井	搬送車両の確保(3台)
16:15	医療支援班 中野	櫻井	搬送車両の確保(3台)

訓練時に作成したクロノロジー(保健活動支援班)

時刻	被害状況	各保健センター参集状況	被害状況
	被害状況	地区 保健師 栄養士 歯科	建物
16:00	被害状況確認	中地区 1 6 ③	工場等、保健福祉センター同様。
16:05	企画調整班 次長へ報告	東地区 1 4 ②	
		北地区 1 2 ①	
		西地区 1 6 ③	

レイアウトは異なるが、いつ、誰から、どんなことを指示受けしたのかが時系列に従って記載されている。

→次長より指示(受) チーム: 2人2組

- 16:15 チーム編成状況確認
- 16:20 企画調整班2人
- チーム編成状況確認: 市の本部に伝達を依頼
- 16:25 次長より各保健センターのチームは次の指示が出るまで待機と指示(受)
- 16:30 企画調整班2人(受) 大穴北小への対応依頼
- 16:35 北部保健センターへ指示 (1チーム派遣)
- 16:55 北地区大穴センターの報告(受)

災害医療対策本部運営訓練

講評（鳥海会長、筒井所長）



訓練の振り返り

【主な内容】

- 参集医師の把握の難しさや、連絡手段が限られる中でどう対応していくかが課題であると感じた。(四師会)
- 順次、発災経過(日)の訓練を行いたい。各師会との連携事項も何か訓練の中に入れていただきたい。(四師会)
- 本部会議で報告だけでなく、対応方針に係る意思決定のプロセスを組み込んだ訓練を行いたい。(市職員)
- 実災害時と同様に、同時並行でマルチタスクに対応しなければならない状況下で訓練できたことは有意義で良かった。(市職員)

※その他の内容については、資料3「災害医療対策本部運営訓練アンケート」を参照

4 災害医療対策本部運営訓練の振り返り

- 参加者アンケートや実際に参加した上で、来年度以降の本部運営訓練についてどう実施すべきと考えるかご意見を伺いたい。
 - 時期、内容
 - 参加者の拡大
 - 病院前救護所との同時開催について など

内容について特に限定はしませんので、ご自由にご意見を賜りたい。

議題2

病院前救護所に関すること

1 二巡目の訓練実施状況

災害医療協力病院9病院のうち、令和6年度は下表の5病院中4病院で実施済み。

日程	病院名
令和6年9月14日(土)	千葉徳洲会病院 P22~29
令和6年10月19日(土)	船橋中央病院 P30~37
令和6年11月2日(土)	船橋二和病院 P38~46
令和6年11月24日(日)	板倉病院(総合防災訓練と同日開催) P47~55
令和7年2月22日(土)	東船橋病院

2 病院企画型訓練の実施状況

本年度、市主催型訓練の対象ではないが、自主的に病院企画型訓練として実施した病院については以下のとおり。

日程	病院名
令和6年7月10日(水)、 10月 7日(月)	セコメディック病院
令和6年11月16日(土)	北習志野花輪病院

3 二巡目の訓練実施項目

- 各病院との打ち合わせでは、訓練想定に基づき、どのような対応が必要かを事前に考えてもらい訓練を実施した。
- 項目の一例
 - 電子カルテ使用可否
 - 検査できる項目の範囲
 - 非常用電源稼働時の水使用の可否
- 上記のほか、模擬患者の来院ペースを上げるなどにも取り組んだ。
- 各病院の取り組んだ内容は別添資料4「病院前救護所設置・運営訓練実績」参照

3 二巡目の訓練実施項目(つづき)

- 医師会以外の先生方にも、トリアージ判定者やトリアージ記録者として活動してもらった。
 - 事前に訓練参加者の承諾あり
 - 訓練当日に30分程度説明の時間を設け、病院前救護所の流れや、トリアージのやり方等について説明を実施

4 今年度の訓練についての報告

(1) 千葉徳洲会病院前救護所訓練

日時 令和6年9月14日(土)
午後1時15分～4時45分

参加者 千葉徳洲会病院スタッフ:104人
医師会、薬剤師会、
千葉県柔道整復師会:計13人
市内災害医療協力病院:12人
船橋市職員:25人

訓練での目標

- 院内本部・救護所の設置及び運営を同時並行で適切に行う
- 模擬患者を2例ずつ順番にトリアージし、傷病者を振り分け、トリアージタグに必要事項を漏れなく記載する
- 2次トリアージエリアを設けて、緑タグ患者の急変に適切に対応する
- 黄、赤エリアを設定し、各エリアに搬送する

病院前救護所設置・運営訓練 (千葉徳洲会病院)①

トリアージの実施

1次トリアージ

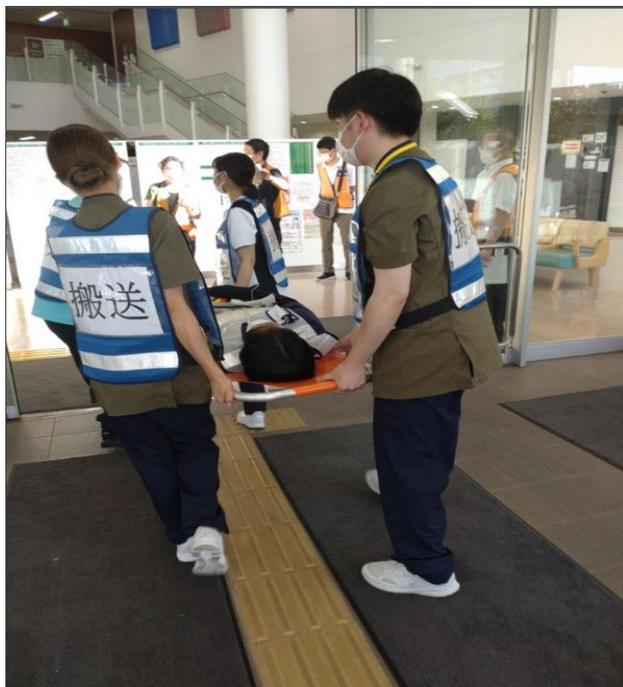


2次トリアージ



病院前救護所設置・運営訓練 (千葉徳洲会病院)②

搬送の様子



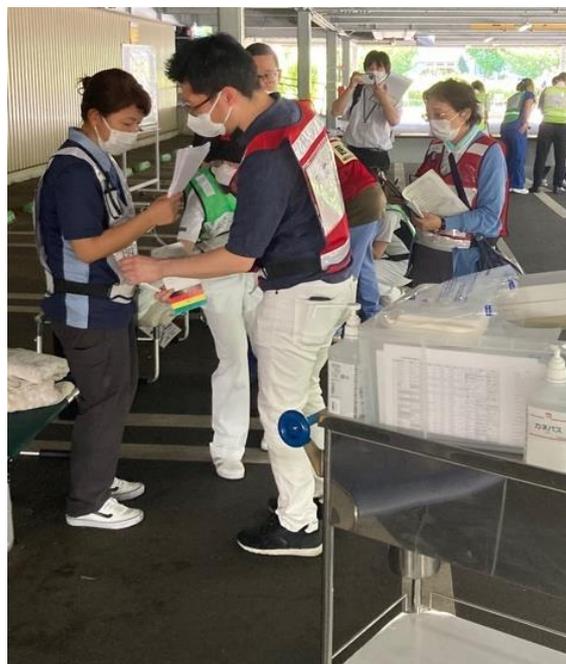
指揮所の様子



病院前救護所設置・運営訓練 (千葉徳洲会病院)③

各治療エリアの運営

緑エリア



黄エリア

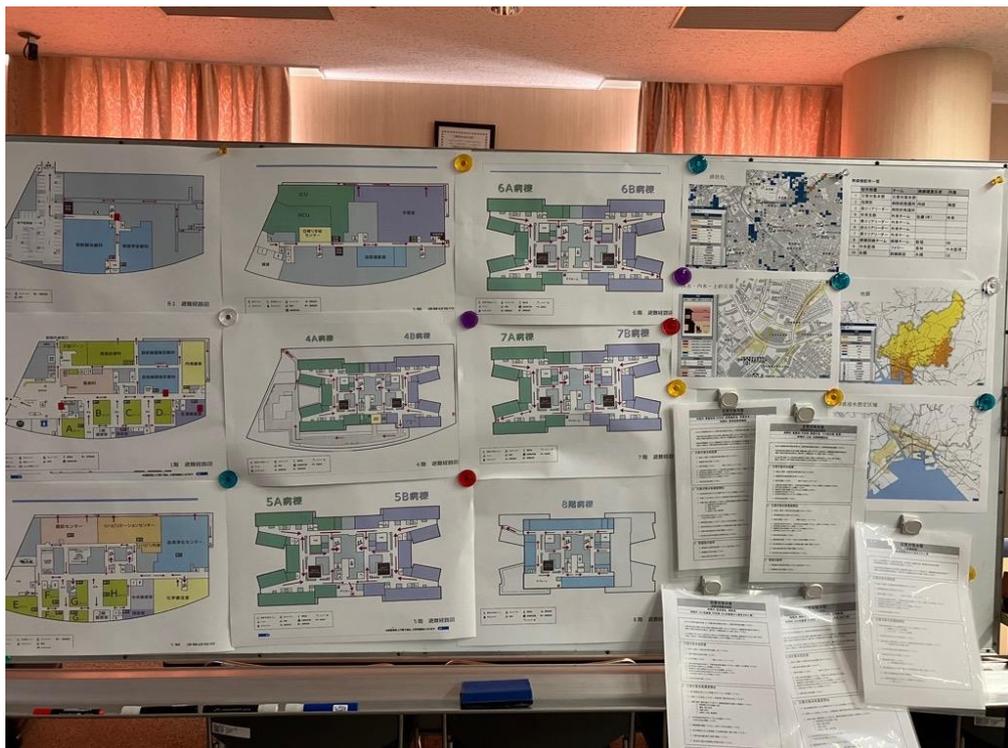


赤エリア



病院前救護所設置・運営訓練 (千葉徳洲会病院)④

院内災害対策本部の様子

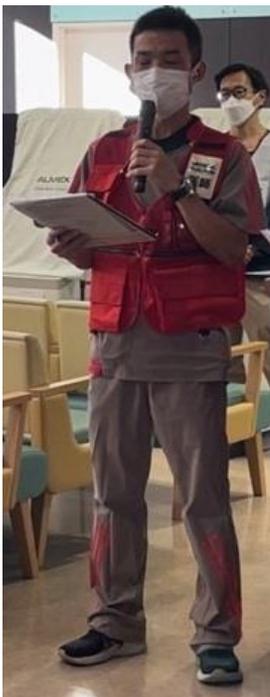


概要		詳細		
病院名	合計	済	未	
全体				
千葉	872	270	602	
ほのほのST	12	5	7	
高根台介護	7	3	4	
部署別				
病院名	部署名	合計	済	未
千葉	なしOr応援	1	0	1
千葉	医局	63	22	41
ほのほのST	訪問看護	12	5	7
高根台介護	高根台在宅介護支援センター	7	3	4
千葉	看護部長室	3	2	1
千葉	感染対策室	2	2	0
千葉	WOC認定看護師室	1	0	1
千葉	医療安全管理室	2	2	0

病院前救護所設置・運営訓練 (千葉徳洲会病院)⑤

講評

(大数加理事、筒井保健所長、松戸市長、鶴田院長補佐)



訓練の振り返り(千葉徳洲会病院)

【主な内容】

- まずは、参加して体験できたことで流れを理解できたことが良かった。(四師会)
- トリアージを実際に体験できて良かった。(四師会)
- 院内本部等の拠点多いため、トランシーバーの混線等、情報共有の仕方に課題を感じた。(市職員)
- 夜間時に起きた災害を想定して、十分に人員がない場合の訓練も必要と感じた。(協力病院)

※その他の内容については、資料5「千葉徳洲会病院前救護所訓練アンケート」を参照

(2) 船橋中央病院前救護所訓練

日時 令和6年10月19日(土)
午後1時30分～4時30分

参加者 船橋中央病院スタッフ:98人
医師会、歯科医師会、薬剤師会、
千葉県柔道整復師会:計19人
市内災害医療協力病院:3人
協力薬局:1人、船橋市職員:36人

訓練での目標

- トリアージタグを漏れなく正確に記載し、トリアージを行う。
- 災害用処方箋が発行された患者について、協力薬局までの動線を確認しながら、薬を受け取るまでの訓練を行う。
- 前半に緑エリアの訓練を、後半に黄・赤・黒エリアの訓練を行い、2部構成に分けることで、各エリアの動きをより細かく検証する。
- 参集医師の補助として病院外部からくる看護師とも連携しながら、トリアージや治療を行う。

病院前救護所設置・運営訓練 (船橋中央病院)①

トリアージの実施



病院前救護所設置・運営訓練 (船橋中央病院)②

搬送の様子



指揮所の様子



病院前救護所設置・運営訓練 (船橋中央病院)③

各治療エリアの運営

緑エリア



黄エリア



病院前救護所設置・運営訓練 (船橋中央病院)④

各治療エリアの運営

赤エリア



病院前救護所設置・運営訓練 (船橋中央病院)⑤

講評

(鶴田理事、梶原副会長、筒井保健所長、松戸市長、山口院長)



訓練の振り返り(船橋中央病院)

【主な内容】

- 訓練を2部制に分け、各エリアとも丁寧な解説がなされていたため、訓練全体が非常に分かりやすかった。(四師会、市職員)
- 緑エリアで災害用処方箋が発行された患者が協力薬局に行く際の動線とトリアージエリアに向かうまでの患者の動線が交叉しているため、人の流れ方に疑問を感じた。(四師会)
- 歩行が出来てる時点でトリアージ緑と判定したならば、医師ではなく看護師でも良いのではと思いました。医師は災害時可能な限り、処置などにまわってほしいと思いました。(四師会)

※その他の内容については、資料6「船橋中央病院前救護所訓練アンケート」を参照

(3) 船橋二和病院前救護所訓練

日時 令和6年11月2日(土)
午後1時30分～4時30分

参加者 船橋二和病院スタッフ:68人
医師会、薬剤師会、
千葉県柔道整復師会:計10人
市内災害医療協力病院:4人
協力薬局:2人、船橋市職員:36人
災害時看護職ボランティア:3人
地域住民:9人

訓練での目標

- 院内本部・救護所の設置及び運営を同時並行で適切に行う。
- 災害用処方箋が発行された患者について、協力薬局までの動線を確認しながら、薬を受け取るまでの訓練を行う。
- 黄・赤エリアの訓練において、被害想定を勘案し、電子カルテでなく、紙カルテ等を用いて患者情報を得ながら、訓練を実施する。
- 災害時看護職ボランティアとも連携しながら、トリアージや治療を行う。

病院前救護所設置・運営訓練 (船橋二和病院)①

トリアージの実施



病院前救護所設置・運営訓練 (船橋二和病院)②

搬送の様子



指揮所の様子



病院前救護所設置・運営訓練 (船橋二和病院)③

各治療エリアの運営

緑エリア



黄エリア



病院前救護所設置・運営訓練 (船橋二和病院)④

各治療エリアの運営

赤エリア



黒エリア



病院前救護所設置・運営訓練 (船橋二和病院)⑤

院内災害対策本部の様子



病院前救護所設置・運営訓練 (船橋二和病院)⑥

講評

(鶴田理事、梶原副会長、筒井保健所長、松戸市長、宮原院長)



訓練の振り返り(船橋二和病院)

【主な内容】

- 本部訓練の質が非常に高く、対策本部のクロノロジー、情報共有のホワイトボードがとても良かった。本番のエリアでの訓練を1度検討していただきたい。(四師会)
- トリアージを担当したが、アンダートリアージがよいのか、オーバートリアージが良いのか、考えさせられた。(四師会)
- マニュアルを読むだけではイメージがつかなかったなので、実際の訓練に参加する事で自分の役割(トリアージ)を認識できたことが良かった。(災害時看護職ボランティア)
- 様々な区分の患者が一気に来て所見ごとに優先順位を判断してさばく(実際に混乱しているような状態)で行うと、より実践に近づくと感じた。(市職員)

※その他の内容については、資料7「船橋二和病院前救護所訓練アンケート」を参照

(4) 板倉病院前救護所訓練

日時 令和6年11月24日(日)
午前9時00分～12時00分

参加者 板倉病院スタッフ:124人
医師会、薬剤師会、
千葉県柔道整復師会:計12人
市内災害医療協力病院:4人
協力薬局:1人、船橋市職員:14人
地域住民:16人

訓練での目標

- トリアージエリアでのトリアージ後、各治療エリアにおいて医師が処置を行う際、オーバートリアージやアンダートリアージがないかを確認する。
- 緑エリアを市協定先の施設(クロス・ウェーブ船橋)に設置し、傷病者の受け入れや診察及び処置等を行う。
- 災害用処方箋が発行された患者について、協力薬局までの動線を確認しながら、薬を受け取るまでの訓練を行う。
- MCA無線により、市災害医療対策本部へライフラインの支援要請及び重傷者の搬送要請を行う。

病院前救護所設置・運営訓練 (板倉病院)①

トリアージの実施



病院前救護所設置・運営訓練 (板倉病院)②

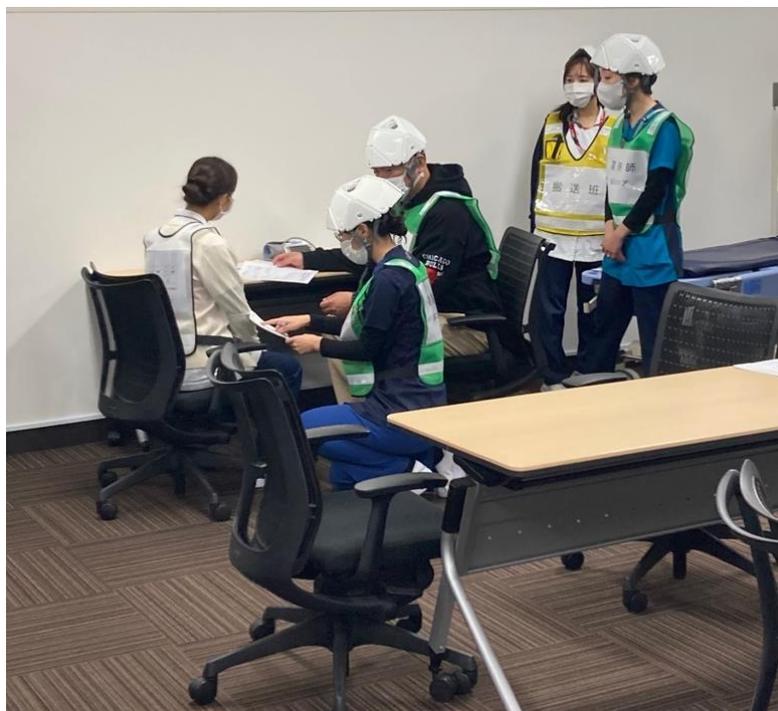
指揮所の様子



病院前救護所設置・運営訓練 (板倉病院)③

各治療エリアの運営

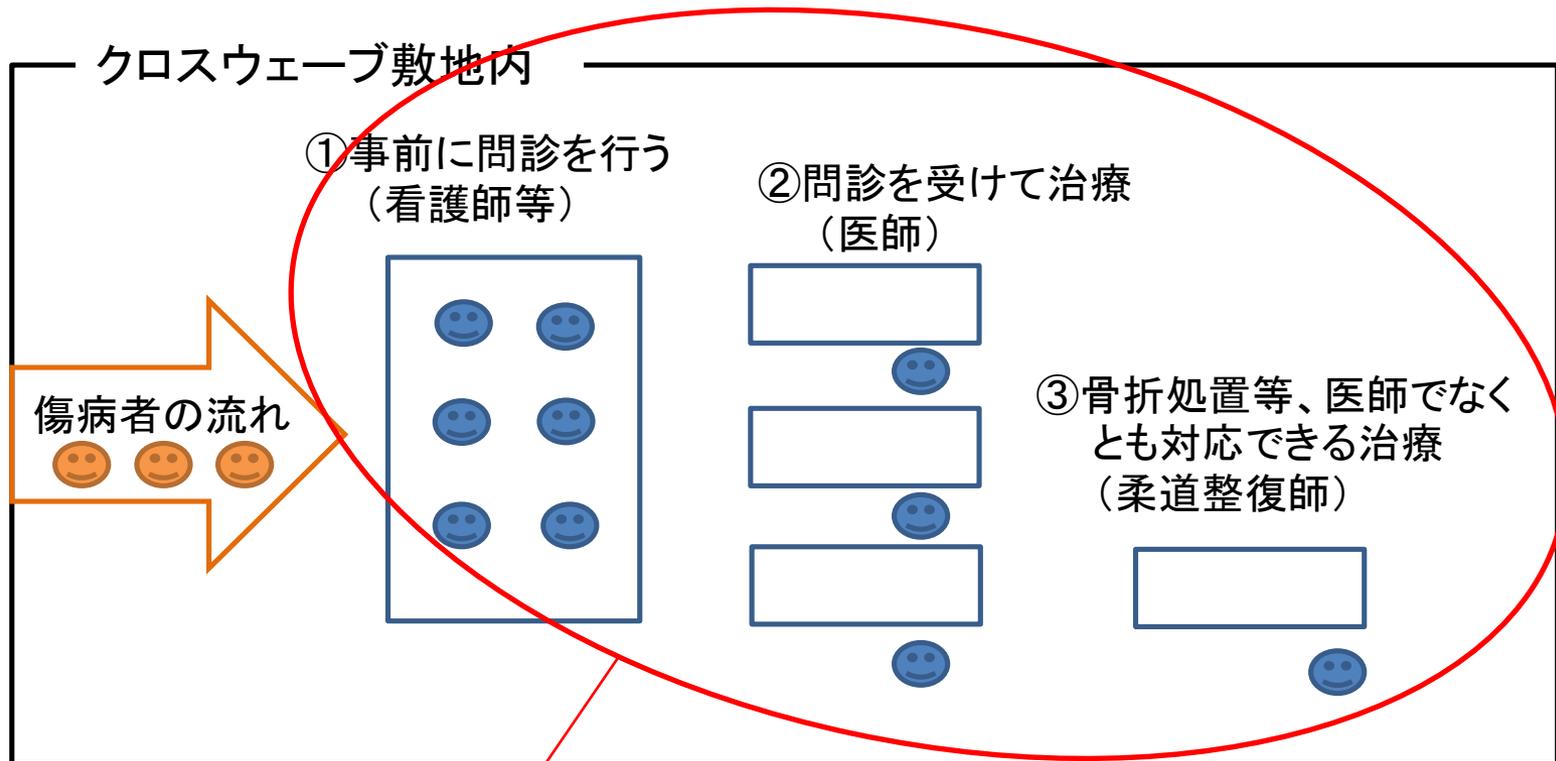
緑エリア



黄エリア



緑エリアの配置図



治療エリアでの活動をより充実させるにあたり、活動内容や配置についてご意見を頂きたい。

病院前救護所設置・運営訓練 (板倉病院)④

院内災害対策本部の様子



病院前救護所設置・運営訓練 (板倉病院)⑤

講評(小栗理事、 梶原院長)



訓練の振り返り(板倉病院)

【主な内容】

- 記入しやすいカルテが必要だと思えます。また事前にラミネートされたマニュアル、処方箋等の配付(PDF)があると良かったと思えます。(四師会)
- 被災者がどのような流れで誘導されるのか、多職種との連携がわかった。緑エリアでの処方箋について、調剤薬局との連携もあれば良いと思った(薬局に行く前に簡単な聴取など)。(四師会)
- クロスウェーブ、協力薬局等とも協力した地域での体制づくりが行われていることが分かって良かったが、周囲の交通や通路状況もあるので、町会等での見守り協力等も必要かと感じた。(町会)

※その他の内容については、資料8「板倉病院前救護所訓練アンケート」を参照

5 訓練の振り返り

- 参加者アンケートや実際に参加した上で、来年度以降の病院前救護所設置・運営訓練についてどう実施すべきと考えるかご意見を伺いたい。
 - 訓練の開催日や参加人数
 - 特に内容について、薬剤師会や歯科医師会の活動の場についてご意見を頂きたい。
 - 各師会にトリアージ判定や記録を実施したことについて など

5 訓練の振り返り

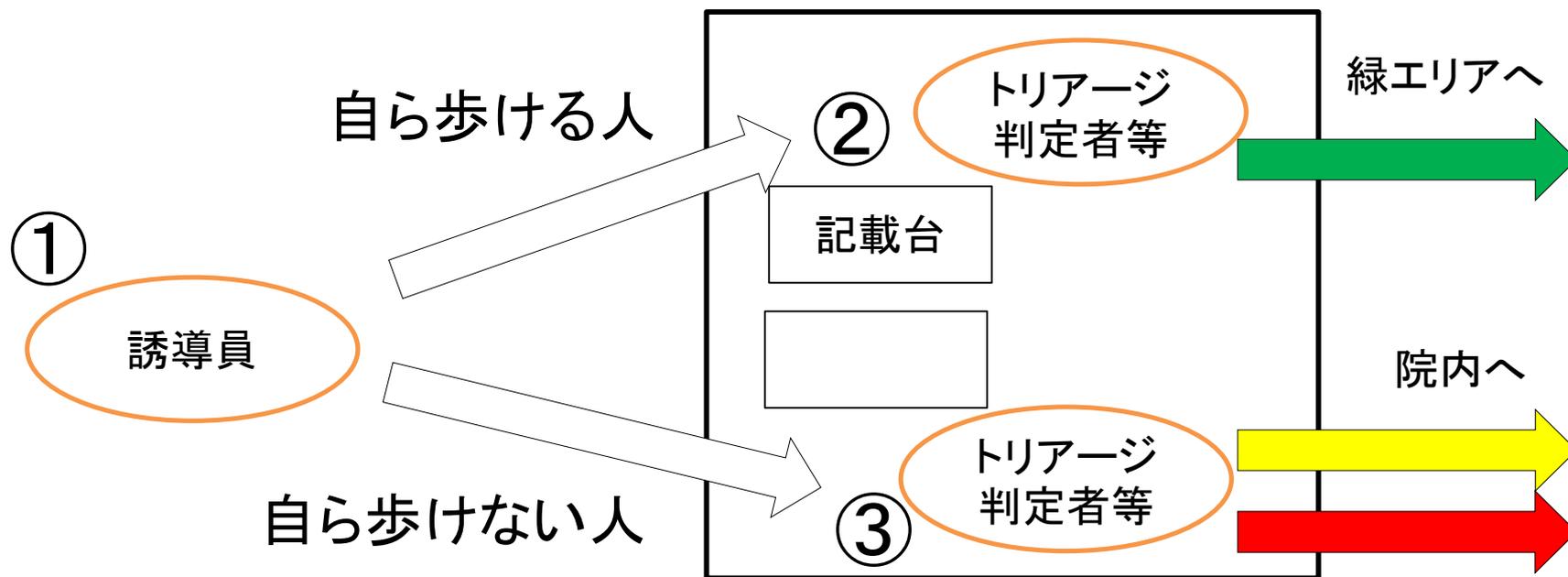
- アンケートの中で、「あきらかに重症やあきらかに軽症の人たちをどう振り分けるのか、同じ列で待たせるのか？」とのご意見があった。
- 以前より訓練等の際にトリアージポストにおいて軽症者用のレーンを設けて、トリアージの効率を上げられるのではといったご意見を頂くこともあった。
- 次ページのように、レーンを分けたトリアージを訓練で実施し検証することはいかがか。

先生方のご意見を頂きたいです。

5 訓練の振り返り

トリアージポストのレイアウト及び流れのイメージ(一例)

以下のイメージをベースにご意見を頂きたい。



- ①誘導員が自ら歩ける人と歩けない人のレーンを分けて誘導
- ②歩ける人については、記載台にて自らトリアージタグの氏名等の欄を記載し、その後トリアージ判定者による確認、聞き取りを受ける。
- ③通常通りトリアージを受ける。

6 令和7年度の訓練予定

開催希望月(※)	病院名
令和7年10月	青山病院
令和7年10～11月	船橋総合病院
令和7年10～11月	セコメディック病院
令和7年9～11月	北習志野花輪病院

※開催希望月については、昨年の12月に行った調査での回答

議題3

その他

①復旧期以降の体制に関すること
—医薬品の供給について

②大規模地震時医療活動訓練の報告

①復旧期以降の体制に関すること

－医薬品の供給について

課題

・慢性疾患の方や避難所等における医薬品の継続的な供給体制を検討することで、災害関連死等を防ぐ必要がある。

・以前より先生方からご意見を頂いていたが、
－医薬品ストックセンター
－会員薬局への医薬品備蓄 など
今後、具体的な検討を進めていきたいと考えている。

②大規模地震時医療活動訓練について

日時	令和6年9月28日(土) 午前8時45分～17時15分
場所	市立医療センター (DMAT東葛南部活動拠点本部)
参加機関	市立医療センター 沖縄県立中部病院 船橋市保健所 習志野市保健所 船橋市消防局 等

訓練での目標（千葉県設定）

- 人口も多く、道路状況も良くない地域の中で、いかに優先順位を決めてライフライン関係（水・電源）の手配を行っていくか。
- 医療センター内で机上（一部実働）訓練にて、市内医療機関の情報（EMISに基づく）や外部からの応援・市内の医療資源を把握し、適切な支援につなげる。
- 搬送支援や情報収集について、他機関（保健所・消防・自衛隊等）との連携を検証する。

東葛南部活動拠点本部 訓練内容 (千葉県DMATが計画)

- ① 本部体制の構築
 - ・通信面の整備:スターリンクの設置、衛星携帯電話等
- ② 災害拠点病院の支援(搬送支援等)
- ③ ロジスティック訓練
 - ・市内医療機関のライフラインの情報収集等
- ④ 他機関との連携
 - ・EMISによる情報共有や搬送車支援等
- ⑤ 小児周産期連携(リエゾン)
- ⑥ DPAT(災害派遣精神医療チーム)連携
など

訓練の様子①



大半の参加者がEMISを
確認しながらの作業

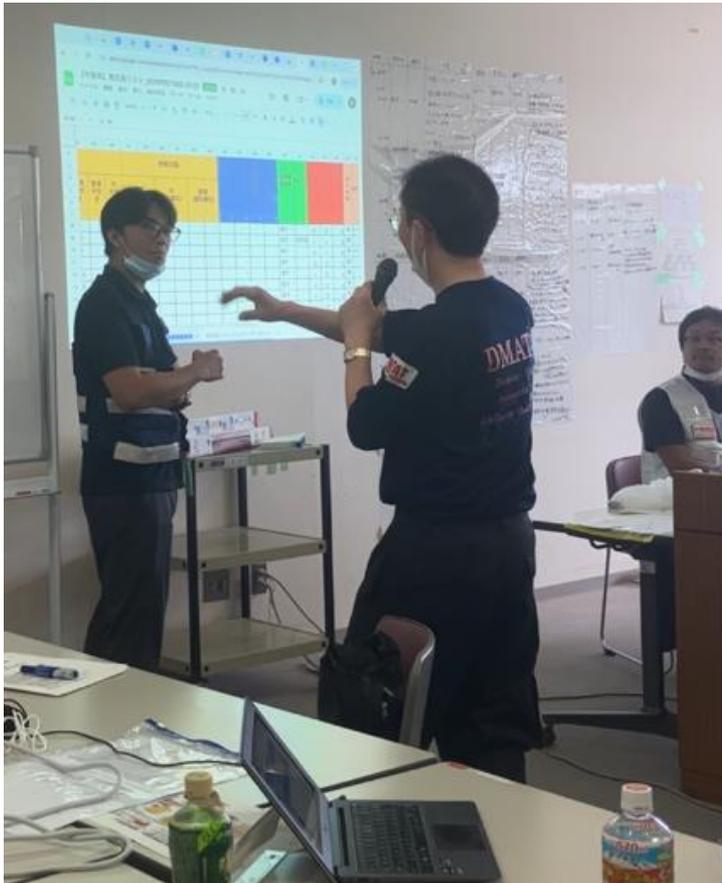
EMIS概況

日時	2024/9/29 8:45 9:40	
本部名称	東宮印 活動拠点本部	
管轄医療圏	東宮印	

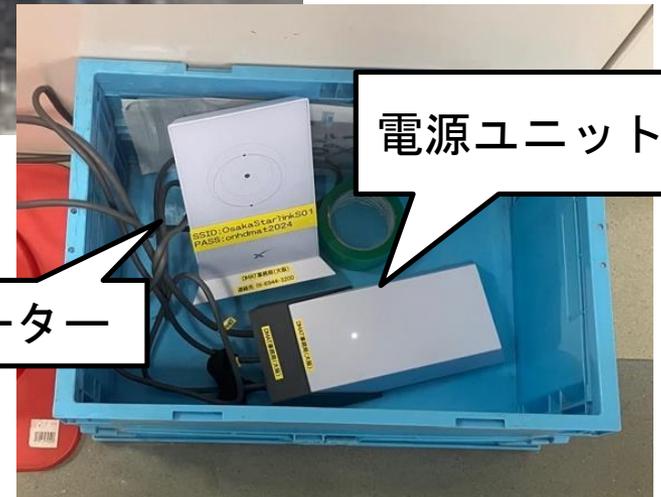
	病院数	赤			青	未	入力率
		倒壊	浸水	電気1日未満			
全体	61	20			1	40	33%
災害拠点病院	6	6			0	0	100%
		0	0	0			
一般病院	55	14			1	40	27%
		1	0	3(U)			

被害状況の概要を随時まとめ

訓練の様子②



全体会議でEMISを映しながら報告、課題等の共有



衛星通信の活用

訓練に参加して気づいた点

- ・訓練中に時間を決めた全員参加の会議開催や、googleドライブ等の情報共有ツールの使用により、訓練参加者全員が現状や課題・活動方針等について効率的に共有し、共通認識のもと班ごとのスムーズな活動ができていた。
- ・市災害医療対策本部が行う市内病院の情報収集（EMISの緊急時入力の充実、ライフライン等の各種支援等）と、「DMAT東葛南部活動拠点本部」が同様の情報収集を行っており、役割の確認をしておくことが必要と感じた。

今後取り組みたいこと

- ・「東葛南部活動拠点本部」と市災害医療対策本部での状況共有をスムーズにするため、情報共有の仕組みについての検討
- ・千葉県災害医療本部、「東葛南部活動拠点本部」、市災害医療対策本部等のそれぞれの活動内容、役割の確認や、重複して行う活動の事前調整